

2025(令和 7)年度入学試験問題

国 語

(注意) 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

盈 進 中 学 校

一 次の _____ 線部の漢字をひらがなに、カタカナを漢字に直しなさい。

- ① オリオン座は肉眼でよく見える。
- ② 機械の操作を覚える。
- ③ 美術館の所蔵する作品。
- ④ 定刻に始まった。
- ⑤ 山の頂からの景色。
- ⑥ 県の庁舎に行く。
- ⑦ 話の筋をとらえる。
- ⑧ 灯台もと暗し。
- ⑨ 相手の胸中を察する。
- ⑩ 書店を営んでいる。
- ⑪ キュウシヨク当番が配る。
- ⑫ ステージのマークが上がる。
- ⑬ 会場にコッキをかかげる。
- ⑭ かぜのヨボウに努める。
- ⑮ 神社で手を合わせてオガむ。
- ⑯ 母はカンゴ師をしている。

- ①⑦ 問題点をトウロンする。
- ①⑧ 大きなリエキを得る。
- ①⑨ ビタミンCがホウフだ。
- ②⑩ シンカンセンで移動する。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

I なぜ「ニホンジカ」が有害獣として駆除されるまでに増えてしまったのだろうか？

現在、日本におけるニホンジカの数、200万頭とも300万頭を超えるとも推定されている。その数は、同じ有害獣とされている「イノシシ」の3倍にあたる。

近年の急増に対して、環境省は2013年に強化対策に乗り出し、10年後の2023年までに個体数を半分にまで減らす目標を立てた。現在では、対策によつて減少しているものの、年間の捕獲数は50万頭に満たず、①目標にはまだまだ遠くおよばない。

その急増は、人間の生活にも影響をおよぼしている。野生鳥獣による農作物被害は、ニホンジカによるものが全体の3分の1を占めていて、その次にイノシシ、カラス、サルと続く。

被害は2000年頃から日本全国に広がっていき、2010年度の被害総額は239億円にまで達している。もっとも駆除の急がれる野生獣は、生息頭数の多いニホンジカなのだ。

ニホンジカが増えた原因はいくつかあげられる。

鹿の生態として、メスは生まれてから1年で出産が可能となり、1年に1回、1頭の子どもを産む。2歳以上のメスのほとんどが妊娠し、エサの確保さえできれば、ほぼ毎年出産するため、短期間でその数はどんどん増えていく。天敵だったニホンオオカミの絶滅により、命を失う危険が減っていることも大きな要因といえるだろう。

また、**A**自然環境ばかりがその原因ではない。鹿が人が住む集落にやってきて農作物を荒らすのは、戦後に**イ**拡大された「造林計画」の影響ともいわれているからだ。

造林計画とは、広葉樹からなる天然林を伐採し、代わりにスギやヒノキ、カラマツ、アカマツなどの針葉樹に置き換えていくことをいう。針葉樹は成長が比較的早く、建築用材として価値が高いからだ。つまり、お金にはならない広葉樹をなくし、代わりに高く売れる針葉樹への植え替えが、戦後(1945年以降)、日本各地で行われてきた。

ニホンジカがエサとしていた、栗やどんぐりの実がなる広葉樹が、植え替えによってなくなってしまった。当然、ニホンジカは、エサを求めて歩き回り、生きのびるために次第に人の住む集落に近づいてくるようになった。

しかし、鹿は元来人間を恐れる生き物で、警戒心がとても強い。そう簡単に人の住む集落に入り込んで来ないのが普通だ（「奈良のシカ」が、いかに特殊かがわかるだろう）。それなのに、多くの鹿が山から下りてきて、田畑を荒らすようになってしまったのはどうしてなのだろう？

一番の原因は、「里山」が激減していることだと考えられている。

里山とは、野生動物と人間、それぞれが住む場所の「境界線」のような地域のことだ。人の住む集落に密接している山で、人が山の木々を切って燃料の薪を取ったり、炭を作ったりしていた。人が手を入れることで里山の生態系は守られていた。

②ところが、時代の移り変わりとともに、里山から人の気配が消えてしまった。

※多賀町は、森林が町の86パーセントを占め、かつては林業が盛んで町の中心となる産業だった。
A、日本の木材は外国からの安い輸入木材に押され、価格競争に勝てなくなって、林業に見切りをつけざるを得なくなっていった。
B、電気やガスが普及したことで、薪を燃料として使わなくなり、里山とともに暮らす人びとは次第に減っていった。

放置された里山には、野生動物が出て来やすくなる。そして、里山からちよつと足をのばせば、密接する集落に稲や野菜などおいしい食べ物がたくさんある。一度おいしい作物を味わった動物たちは、危険を承知で山を下りてくる。人が育てた農作物は山で得られるエサとは比べものにならないほど栄養価が高く、野生動物の出生率も上がるに違いない。

これは多賀町にかぎってのことではない。集落と山との境界線になっていた里山が消滅することで、日本各地で同じ問題が起きている。このまま問題を放っておけば、ニホンジカが増え続け、やがてエサ不足になってニホンジカの数も自然と減っていくのかもしれないが、その前に山の生態系そのもののバランスが崩れ、取り返しつかないことになるに違いない。各地でニホンジカやイノシシの生息数を適正に管理するための対策が強化されているのは、そのためなのだろう。

Ⅱ ニホンジカをはじめとする③野生の有害獣を駆除する方法は、2とおりある。

ひとつは「銃^{じゅうりゅう}猟」で、山に入ってライフル銃などで直接ねらって撃^うつ方法だ。今回、大将の藤河^{ふじかわ}さんたちが行ったのがこの方法で、猟師がニホンジカの生息域に分け入って、発見から追い込み^{むか}迎え撃つ。

そして、もうひとつは「わな^し猟」で、わなを仕掛けて獲物^{えもの}を捕獲する方法だ。どちらも、国が認める狩猟免許^{めんきょ}が必要だ。「第一種銃猟免許」「第二種銃猟免許」「わな^し猟免許」の3種があり、それぞれ扱うことのできる狩猟道具が異なる。

大将の藤河さんが取得しているのは第一種銃猟免許で、山での狩^かりにはライフル銃を使用する。同時にわな^し猟免許も取得している大将は、「箱^おわな」や「くくりわな」も仕掛ける。

箱^おわなは、大きな檻^{おり}の中にエサをまいて野生動物をおびき寄せ、獲物が檻の中に入ったら扉^{とびら}が閉まり、閉じ込めるしくみになっている。獲物に合わせた大きささまざまなサイズがあり、大きい箱^おわなであればニホンジカやイノシシも捕らえられる。

また、サルなどは一定期間の餌^えづけをして集団捕獲もできたりするすぐれものだ。ただ安価なものではなく、場所移動も容易ではないため、先に場所を見極め、獲物が確実に出る地域に設置することが捕獲成功^{ひけつ}の秘訣^{ひけつ}となる。この箱^おわなの設置場所は、住民らの鹿^{もくげき}の目撃情報などによって決められているという。

くくりわなは、ニホンジカやイノシシが通る「けもの道」に穴^{あな}を掘って仕掛け、落ち葉や枝をかけて、わなが完全に隠^{かく}れるように設置する。知らずに通った動物の足にワイヤーが引っかかり、逃げ^にられなくするしくみだ。値段も安く手軽に設置できるので、駆除には広く利用されるという。野生動物は、山の中を縦横^{じゅうおうむじん}無尽に動き回るわけではない。猟犬に追いつめられた動物は、必ず「けもの道」を通る。

長い間、この「けもの道」の把握^{はあく}は、猟師たちの経験とかんにゆだねられてきた。猟師たちが日々山の中を歩いた距離^{きょり}は、そのまま山の知識^{ちくせき}の蓄積となる。しかし、猟師たちの高齢化^{こうれいか}が進み、後継者^{こうけいしや}がなかなか育たないこともあって、これまでの手法での有害獣駆除には限界が見えていた。

そこで、④AI技術を使った取り組みが全国各地ではじまっている。ドローンを飛ばし、上空からニホンジカやイノシシの頭数を調

査して、正確な「けもの道」を割り出して、わなを仕掛ける試みだ。

その結果、捕獲数はかなり増えたが、それでも、地上で捕獲する人手は不足したままで、年間目標としている捕獲数にはまだまだ届かない。やはり問題は、ニホンジカだ。頭数も多く行動範囲も広いため、捕獲は容易ではない。

この問題を解決するため、赤外線カメラ搭載のドローンを飛ばし、上空から動物を見つけることができない場所での個体生息数調査に役立てる取り組みもはじまっているという。

森林が8パーセントを占める多賀町でも、最新のAI技術を利用した調査がはじまれば、駆除のスピードも格段に上がっていくに違いない(毎日新聞「見上げれば監視の目」2020年10月9日より)。

猟師たちが培った知恵と、最新の技術を総動員して、野生動物と人間の共存のため、自然の生態系の維持のため、この問題にあたらなければならない。

(今西乃子『命の境界線』より)

※多賀町・・・滋賀県犬上郡多賀町のこと

問一 線部①「目標」とありますが、どのような目標ですか。本文中から十四字で抜き出さない。

問二 線部ア「自然」、イ「拡大」の対義語(反対の意味のことば)をそれぞれ答えなさい。

問三 線部②の「主語(主部)」と「述語(述部)」にあたる部分を、次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

「アところが、イ時代のウ移り変わりとともに、エ里山からオ人の気配がカ消えてしまった。」

問四

空らん

A

B

に入る適切なことばを次からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

ア また

イ つまり

ウ なぜなら

エ しかし

オ だから

問五

この文章を読んだ空くんは問五段落を次のようにメモにまとめました。空らん(ア)～(エ)に入る言葉を本文中から、指定された字数でそれぞれ抜き出なさい。

問五 なぜ「ニホンジカ」が増えたのか？

現在 ニホンジカは 200～300 万頭

農作物被害のうち、ニホンジカによるものが
全体の 3 分の 1

ニホンジカが増えた原因

- ① 短期間で出産し数を増やすという鹿の (a 2 字)
- ② ニホンオオカミが絶滅し (b 2 字) が不在
- ③ (c 4 字) によりエサとなる栗やどんぐりの
実になる広葉樹が減る

＋
林業の衰退により (d 2 字) が減る

↓
人のいる集落にやってきて、人の育てた栄養価の高い
農作物に味をしめる

↓
出生率が上がる

問六

線部③「野生の有害獣を駆除する方法」について、

- (1) その方法として正しいことを述べているものはどれですか。次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 第一種銃猟免許を持っていれば、ライフル銃を用いた「銃猟」という狩りに加えて、「わな猟」も行うことができる。
イ 「箱わな」は高価で場所移動も困難なため、事前に設置場所の調査を行い獲物が確実に出る地域を見極めることが重要となる。
ウ 「箱わな」も「くくりわな」も、ニホンジカやイノシシの生息域にエサをまいておびき寄せ、確実に捕獲することができる。
エ 「くくりわな」は住民らの目撃情報をもとにけもの道に穴を掘ってわなを仕掛けるため、駆除には広く利用されている。

- (2) **Ⅱ** 段落を読むと「野生の有害獣を駆除する」取り組みが、実際は進んでいないことが分かります。その原因は何だと筆者は述べていますか。**Ⅱ** 段落から八字で抜き出なさい。

問七

線部④「AI技術を使った取り組みが全国各地ではじまっている」とありますが、次の新聞記事は山口県におけるAI技術を用いたシカ捕獲について書かれています。

シカ捕獲最多1万頭超

被害額1億円突破4年連続増

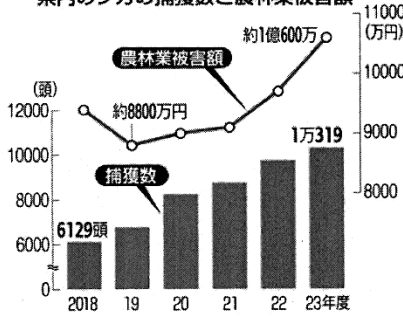
県、ドローン活用 捕獲検証へ

県内で2023年度に捕獲されたシカが初めて1万頭を超え過去最多となったことが6日分かった。イノシシやサルを含めた野生鳥獣の農林業への被害額は5年連続で減っているが、シカの被害額は4年連続で増えて1億円を突破した。県はドローンを使ったシカ捕獲の検証に乗り出す。

(藤田龍治)



県内のシカの捕獲数と農林業被害額



心で、県東部では周南市で報告があるという。野生鳥獣の23年度の県内被害総額は、前年度比9・6%減の約3億3800万円で、10年度(約8億1000万円)の半分以上に縮小している。一方でシカの被害額は増えており、16年度から20%台で推移していた全体に占める割合は30%台となった。

このため県は本年度、シカを効率よく捕獲するためドローンの活用を試す。猟銃を持つ人が待つエリアにシカを効率よく誘導するため、猟犬の鳴き声を発するスピーカーを付けたドローンを飛ばして群れを追い立てる。地元の猟友会などと連携し、下関市と長門市で導入する。

県庁で6日にあった県鳥獣被害防止対策協議会で報告した。委員を務める県猟友会の大井副会長(83)は「猟友会はメンバーの高齢化が進んでいる。ドローンの効果に期待したい」と話していた。

2024年6月7日中国新聞より

※AI(人工知能)とは、言葉を習得したり論理的に推測・学習したりするような人間の脳で行う作業を、コンピュータを用いて行うプログラムのこと。

(1) 新聞記事にはシカを捕獲するためどのようにAI技術を用いていると書かれていますか。記事の中の言葉を用いて説明しなさい。

(2) あなたの身の回りではどのようなAI技術が活用されていますか。具体的な例を一つ挙げて説明しなさい。なお、本文や新聞記事以外の例を挙げることにします。

書くときの条件

- ① 文章は六十文字以上八十文字以内で書きなさい。
- ② 文章は二文以上に分けて書きなさい。
- ③ 文字は濃く、大きく、ていねいに書きなさい。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

主人公の風花は、祖母と母親の三人暮らし。中学校では華道（生け花）部に所属している。

I きとう、ばあちゃんが倒れた。

風花が学校から帰ると、庭でうずくまっていた。

「ばあちゃん！」

駆け寄った風花の手をばあちゃんはガシツとつかんだ。思わず引つ込めたくなるほどの力だ。熱い。おまけに細かく震えている。「……立てんのよ。ふうちゃん、なんでか立てんのよ」

風花の胸が ① みたいに鳴り出した。

六月に入ったばかりだというのに、異様な暑さが続いていた。「観測史上、初めての暑さです。できるだけ昼間の外出はひかえてください」。連日、テレビのニュースが伝えていた。

「ばあちゃん、頑張つて。ここは暑いし、中へ入ろう」

風花はわなないているばあちゃんの体を支えて、なんとか立ち上がらせた。体は熱いのに関色は青い。 ② 玄関までの数メートルがものすごく遠く感じられた。

ようやく※上がり框にばあちゃんを横たえ、すぐにママの携帯に電話した。

「え？ 庭で倒れてたの？ 熱中症かもしれない。すぐ保冷剤で首とわきの下を冷やして。ママ、救急車呼んどくから！」

急いでクーラーのスイッチを入れ、台所へと走る。冷凍庫にあったありったけの保冷剤を抱えてばあちゃんのもとにもどった。食品についてくる保冷剤を、ばあちゃんは「もったいない」といつて捨てずにとっている。「冷蔵庫が狭くなるからやめてよ」とママにいつも文句を言われていたけれど、 ③ こんなところで役にたった。

ママに言われたとおり、横になっているばあちゃんの首筋とわきの下に保冷剤をはさんであげると、ばあちゃんはほーっとため息をついた後、

「……救急車呼んだのかい？ そんな大げさにしなくていいのに……」

と弱々しくつぶやいた。風花はもう一度台所にもどり、コップに入れた冷えた麦茶を取ってきてばあちゃんの口にあてがった。

——ばあちゃん、死なないで、死なないで。

救急車を待つほんの数分間が永遠にも感じられた。

「いつも飲んでいるお薬と保険証を用意して、一緒に救急車に乗ってください」

手際よくタンカにばあちゃんを乗せると、救急隊員は風花に指示を出した。もう一度ママに電話して保険証と薬の在処^{あしか}を聞き、ようやく一緒に救急車に乗り込んだときには、表に人だかりができていた。「病院が決まったらすぐ電話してよ！」。ママの叫び声^{さけ}が耳の中^で※リフレインしていた。

Ⅱ結局軽い熱中症^{しんたん}という診断^{てんてき}で、ばあちゃんは何本もの点滴^{てんてき}を打たれ、後から駆け付けたママも含めて^{ふく}三人が病院を後にしたのは、日がとつぷりと暮れてからだだった。

「ふう……。このくらいで済んでよかったわ」

タクシーの後部座席でヘッドレストに頭を預けながら、ママは深いため息をついた。

「もう少し発見^{おそ}が遅^{おそ}かったら危なかったですよ」とのお医者さんの言葉には触れ^ふなかった。

「母さん、もう頼^{たの}むからこんな暑い日に草取りなんてしないでね」

「……そんなこと言ったって、草は容赦^{ようしゃ}なしなんだから」

点滴で少し元気を取り戻^{もど}したのか、ばあちゃんはいつものようにしつかり言い返す。そんなばあちゃんに風花はほっと胸をなでおろす。そのとたん、派手な音をたてて風花のお腹が鳴った。ぐううー。

「はっはっは。風花のお腹は正直ね。そういえばもう九時過ぎよ。運転手さん、その角のお弁当屋さんでちよつと停めてもらえます？」
なにもいらないとばかりいうので、カラアゲ弁当を二つ買ってママは車に戻ってきた。

「母さん、ちよつとだけでもなにか食べない？」

いつもはけんばかりしていてもやつぱり気になるのか、台所からママはもう一度ばあちゃんに声をかけた。

「そうだねえ。古漬ふるづけのキューリのお茶漬ちやづけなら食べられるかねえ」

「わかった」

いつもは匂においがつくからといってゼツタイに触ろうとしないぬか床どこのカメに、きれいにマニキュアした手をつつこんで、ママはばあちゃんのためにお茶漬ちやづけの用意をした。

十時を回っていた。三人で囲しよぐたくむ食卓しょくたくはまったりと和なごやかだった。ばあちゃんがお茶漬ちやづけをすすめる気の抜ぬけたような音と、ママが勢いきよくタクアンをかむ音。とげとげしい会話もさすがに今夜はなかった。風花は大河内先生おおこうちの『和』という漢字は「**X**」に口と書きます。「禾」は「**Y**」を指すのね。みんなで囲しよぐたくむ食卓こそ、和しやうちやうの象徴しやうちやうです」という言葉を思い出していた。華道部では数学や理科だけでなく、国語だって飛び出すのだ。

Ⅲ——アジサイ！

花材を前に風花は興奮した。アジサイは風花の一番好きな花。『七変化しちへんげ』っていつて嫌きらう人もいるけどねえ」ってばあちゃんは言うけど、そんなこと関係ない。きれいなものはきれい。好きなものは好きなのだ。

「アジサイかあ、地味だなあ」

相賀あいがくんのひとり言が耳に入った。

同じ部活に入っている、相賀くんとはまだ直接口をきいたことはない。相賀くんは風花とおなじく陰いんキャというかなんとか、教室でもあまり目立たない。その相賀くんが結構目立ちたがり屋だということは、活いけるお花を見てわかった。とにかく派手な花が好

きだ。

「そんなことないわよ。要は活け方よ。あなたの腕次第」

大河内先生は地獄耳だ。相賀くんのつぶやきも聞き逃さない。

「花器は夏らしい涼やかなものがいいわね」

廊下に並んだ花器の中から、風花は淡いブルーのお皿みたいな形の水盤を選んだ。水を張ると涼しそうだ。

「スモークツリーとアジサイって、すてきな組み合わせでしょ」

いつも通り闊達におしゃべりしながら、大河内先生は小脇に抱えていた新聞紙の包みを広げた。

「先生、何ですか、これ？ 枯れてますけど」

サカちゃんが遠慮のない声をあげる。

「そうよお。去年剪定したアジサイの枝を残しておいたの」

「こんな枯れ枝が花材になるんですか」

「まあ、見ててごらん。これがとっても④いい仕事をするのよ」

先生は「ふふふ」といたずらっぽく片ほおを上げた。どうやらなにか企みがあるらしい。

風花が大河内先生のことを好きだなと思うのは、こういうところだ。茶目っ気があつて可愛い。それに部活に来るといつも新鮮な驚きをくれる。お花の話をしているかと思ったら、いきなり陰陽師の占星術の話になったりする。変幻自在、融通無碍。この間授業で習

った四字熟語はこの人のためにあるんじゃないだろうかと思うくらい、なんでもよく知っていて、なにより自由だ。

縁日の綿菓子そっくりのスモークツリーは、意外なほど存在感があった。短めに切った枝を水盤の上にふわりと広げると雲海に見える。その間に青や紫、それから濃いエンジ色のアジサイを散らして……。風花は我を忘れて花と対話する。ここでいいかしら？ そ

れともこっち？ ここに在るのは花と自分だけ。花と向き合つてると無心になれる。ウーウーウー。救急車のけたたましいサイレンも、ママの重いため息も、心に巢食う不安も、みんな消えていく。和室に響くのは、パチンパチンというハサミの音とクレーラーの稼働音だ

け。大河内先生のマシンガントークが途切れると、教室に静寂が訪れる。風花にはその瞬間もまた好ましい。

「あらあ、とってもいいじゃない！」

いきなり耳元での大声に飛び上がりそうになった。

「スモークツリーがまるで雲海ね」

考えていたのと同じことを大河内先生から言われて、⑤風花のほおが熱くなった。

「ここでこれが生きてくるのよ」

大河内先生は※伝家の宝刀のようにうやうやしく、アジサイの枯れ枝を手を取った。くるくるとねじ曲がった枝が三本。それらを先生は一本ずつ見極めながら、枝先が天に向くようにスモークツリーの間に挿していった。その手つきに見とれた。大胆かつ繊細だ。すると、ちんまりとまとまっていた風花の花が劇的に変化した。ぐわっと一気に空間が広がった感じがした。そこには深みと躍動感とみなぎるような生氣が生まれていた。

——なにこれ！

「すげっ」

思わずといった感嘆の声が相賀くんの口からもれた。

「そうして、まだ固いつぼみをここにひとつ足すと、ほらあ、もっとよくなったじゃない！」

大河内先生は⑥しながら、バシバシ風花の背中をたたいた。

「はい！」

コクコクと何度も風花はうなずいた。ほんとうにすごかった。ちんまり自足していた風花の花がぐっとパワーアップした。

「終わったように見える去年の枝は過去、今を盛りと咲き誇る花が現在、そして最後に入れたつぼみは未来。みんな存在してこそ世界は成り立っています。そのことがこのお花を見るとよくわかるよね」

一杯の花の中に過去も現在も未来もある。自分の家のことをいわれた気がして、ドキッとした。そのとたん、風花のまぶたが急膨張

した。枯れた枝はばあちゃん、あでやかなエンジのアジサイはママ、そしてまだ青いつぼみは風花だ。みんながいて、世界が成り立っている。

——ばあちゃんが死なくてよかった。

緊張きんちやうしていたせいか、きのうは出なかった涙なみだが今になってこぼれそうになる。風花はハサミを持った手の甲こうでグイッとまぶたをぬぐった。

（八束澄子『こんな部活あります ココロの花 華道部&サッカー部』より）

※上がりがまち框……玄関などの上り口に取り付けられた板

※リフレイン……くりかえし

※伝家の宝刀ほうとう……いざというときに使うものや手段

問一 空らん ① に入る言葉を次から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|--------|---|----|---|------|---|------------------------|---|----------|
| ア | メトロノーム | イ | 風鈴 | ウ | サイレン | エ | 早鐘 <small>はやがね</small> | オ | 目覚ましアラーム |
|---|--------|---|----|---|------|---|------------------------|---|----------|

問二 線部②「玄関までの数メートルがものすごく遠く感じられた」とありますが、この表現からは「時間や距離きょり」が実際より

も長く感じられるという風花の不安な気持ちを読み取ることができます。同じような表現で風花の気持ちが描かれた一文をI場面から抜き出し、最初の五字を書きなさい。

問三 線部③「こんなところ」とは、どのような場面ですか。解答らんに合う形で答えなさい。（ただし、十五字以上で書くこと

とします。）

問四 空らん【 X 】【 には「和」という漢字の部首名が、空らん【 Y 】【 にはその部首が意味する言葉が入ります。Xに

入る部首名をひらがな四字で書き、Yに入る意味を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人間 イ 穀物 ウ 言葉 エ 感情 オ 太陽 カ 神事 キ 生命

問五 線部④「いい仕事」とありますが、この部分を具体的に説明した次の文の空らん a . b に入る言葉を、

本文中から指定された字数でそれぞれ抜き出しなさい。

アジサイの枯れ枝を加えることで、風花の生けた花が a 漢字一字 的に変化し、 b 漢字二字 感が生まれること。

問六 線部⑤「風花のほおが熱くなった」とありますが、このときの風花の気持ちを説明したものとして適当なものを次から一

つ選び、記号で答えなさい。

ア それまで無心になって生けていた静寂の世界から一気に現実に取り戻され、驚きあわてている。

イ 枯れたアジサイの枝を持ってきた大河内先生の企みの意図がはっきりと分かり、思わず興奮している。

ウ スモークツリーを雲海に見立てるといふアイデアを先生に褒めてもらい、うれしさを感じている。

エ 自分だけが考えていたと思っていたことを一瞬で大河内先生に見抜かれ、きまりの悪さを感じている。

問七 空らん ⑥ に入る「自分の発言や行為を自分自身でほめる」という意味の四字熟語を漢字で答えなさい。

問八 この物語を読んで、クラスのみんなで話し合いをしました。これを読んであとの問いに答えなさい。

Aさん この作品はⅠ場面が風花の祖母が倒れる場面、Ⅱ場面は回復する場面、Ⅲ場面は風花が華道部で花を生ける場面がそれぞれ描かれていました。

あなた Ⅰ場面を読んだとき、私は風花という主人公が **A** だと思いました。倒れた祖母への対応や、母親とのやり取りを読んでそう思いました。

Bさん しかしⅡ場面を読むと風花の母親と祖母との関係性も見えてきますね。いつもはとげとげしい会話もする間柄あいだがらですが、この日は倒れた祖母を気遣きづかう母親の姿も読み取ることができます。

Cさん Ⅲ場面はこの出来事の翌日、風花が華道部で花を生ける場面が描かれていますが、最後に完成した生け花を見て風花は涙がこぼれそうになっています。

あなた そうですね。風花は **B** 気持ちになったのではないのでしょうか。このように読んでいくと風花がどれだけ張りつめた気持ちで倒れた祖母への対応をおこなっていたかが分かりますね。

(1) **A** に入る「風花」の人物像として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 心配性で自分の行動に自信を持つことができない人物
- イ ヒステリックな母親の目を気にして、いつもおびえている人物
- ウ 世話好きで、誰に対しても優しく接することのできる人物
- エ 責任感が強く、緊張する場面でも冷静に対応することのできる人物

(2)

B

に入る風花の気持ちを「世界」「安心」という二語を用いて五十字以上七十字以内で書きなさい。

四

次の言葉を例にならってローマ字（ヘボン式）に直して答えなさい。なお、書き出しはすべて小文字とします。

① 昔（むかし）

② 船旅（ふなたび）

③ 麦茶（むぎちや）

④ 祝電（しゅくでん）

⑤ 羊（ひつじ）

例

盈進（えいしん）

eishin